

次号
特集

患者安全

本特集では「病棟を担当する医師が患者安全に関して病院でどのような知識を学び、どのような役割を果たすべきか」を明確にし、実践で役立つ知識を提供します。従来の教科書は概念的な内容にとどまるものが多いなか、今回は一歩踏み込み、総合内科や総合診療科の医師をはじめ、すべての医療者が活用できる内容に、3部構成で整理します。若手も中堅もベテランも、日々の業務と患者安全を結びつけて考えられるようになるための内容、そしてさらに深めていける実践書を目指します。

Part 1 患者安全を知る

1. 患者安全の全体像①：患者安全がなぜ重要か

【コラム】患者安全に係る行政の取り組み

2. 安全科学の現在を知り、実践に活かす
3. 安全性についてどのように測定し、評価するか？

【コラム】予防可能・回避可能とはどういうことか？

4. 患者安全の分析法を知る
5. 問題解決：院内の問題を解決する手法

【コラム】患者安全の学習の機会

Part 2 ホスピタリストとして病院・病棟を安全に管理・運営する

6. 患者安全の全体像②：患者安全活動において医師の関与は重要である

【コラム】ホスピタリストの医療の質・患者安全への影響

7. インシデントレポート：病院・病棟の患者安全の基本の「キ」
8. 患者の意思決定、倫理的問題への対応
9. 安全文化の醸成・チーム力の向上

10. 患者安全について教育する

11. 急変時に備えたRRS運営

【コラム】労働者の安全の患者安全への影響

12. 患者の声・経験を安全に活かす
(Patient engagement for patient safety)

- 13-1. 重大インシデント発生時の対応①
事故治療連携

- 13-2. 重大インシデント発生時の対応②
オープンディスクロージャー

【コラム】事故発生時に患者・家族が感じること

- 14-1. 事例の検証：Self-reflectionとM&Mカンファレンス①

- 14-2. 事例の検証：Self-reflectionとM&Mカンファレンス②

15. 問題行動のある医療者や患者への対応

【コラム】顧問弁護士とどのように連携したらよいのか？

Part 3 各セッティングで安全な医療を提供する

16. 患者確認 (Patient identification)

【コラム】意味のないダブルチェックをやっていないか？

17. パニック値、重要臨床所見の伝達・対応

18. 引継ぎ、ケア移行

19. Medication safety：投薬に係る安全性

【コラム】その薬剤、適応外使用ではないですか？

20. 手術の安全、侵襲的医療行為における安全

21. 転倒・転落

22. アラーム・アラート管理

23. 診断エラー

24. 災害時の対応

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

No.1 代謝内分

No.2 周術期マネジメント

No.3 腫瘍

No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

No.1 神経内科

No.2 呼吸器疾患2

No.3 感染症2

No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

No.1 腎疾患2

No.2 糖尿病

No.3 肝胆膵

No.4 心不全

■ Vol.7 (2019年)

No.1 外来マネジメント

No.2 総合内科のための集中治療

No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて

No.4 内科エマージェンシー

■ Vol.8 (2020年)

No.1 アレルギー

No.2 画像診断①胸部・縦隔編

No.3 手技

No.4 病棟管理

■ Vol.9 (2021年)

No.1 膠原病2

No.2 内分泌疾患2

No.3 不整脈1

No.4 不整脈2

■ Vol.10 (2022年)

No.1 身体診察

No.2 脳梗塞

No.3 画像診断②脳脊髄編

No.4 感染症3

■ Vol.11 (2023年)

No.1 コママネジメント

No.2 透析診療のすべて

No.3 栄養療法

No.4 STI/HIV

■ Vol.12 (2024年)

No.1 輸血のすべて

No.2 薬物治療の質向上

No.3 画像診断③腹部臓器編

No.4 精神科の知識

■ Vol.13 (2025年)

No.1 POCUS

No.2 内科医が診る救急疾患、マイナー疾患

No.3 患者安全

No.4 腫瘍2

先日米国内科学会日本支部 年次総会・講演会で、「日本のホスピタリストの多様性を可視化する」というセッションを拝聴しました。このセッションでは「Core・Bridge・Hybrid」という3つのモデル図が提示され、8つの施設でのホスピタリストシステムが、これら切り口でプレゼンされました。アイデンティティの確認と課題整理のためにこの3つの尺度はとても有効であると思った次第です。これをもとにそのグラデーションも図に落とし込むことで、システムが可変であると感じられたのが大事なポイントと思いました。イチロー型総合診療医、大リーガー医など、ホスピタリストをとりまく環境にこれまで野球の例えも多いですが、大谷選手の活躍で“Two-way player”という言い方が広まっている今、まもなく50号を迎える本誌は、可変であり続けるホスピタリスト像にこれからも注目したいです。

● 広告一覧

南山堂…320

南江堂…350

医学書院…385, 386

日本医事新報社…404

第48号 (Vol.13 No.2) 2026年7月1日発行

Hospitalist

(1部) 定価：本体4,700円＋税

ISBN 978-4-8157-2099-5

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36

電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054

販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055

URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp

振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。